

# 宿泊施設における地域配慮の取組に関する事例集

## ルール周知・行動デザイン（事前～滞在中）

伝えるタイミング

- 予約ページ（Airbnb/Booking等）に明記する
- チェックイン時に“必ず”口頭で最重要ルールを伝える
- チェックイン後も追加でアナウンスする
- LINE等でシナリオ配信（段階的にインプット）する
- マップの裏にルールを載せて、情報提供と一体で届ける
- 読み物（地域の話）＋マップをセットで渡し、散歩前に読んでもらう
- 館内掲示や客室TV等で、地域イベント情報を周知する
- 滞在中の質問窓口（LINE/メッセージ）を用意する

伝え方

- 説教っぽくしない（可愛く／楽しく／読みたくなるデザイン）

参考）白保滞在必読書 「おばあに怒られたい!？」

- 多言語／非言語で伝える工夫（読めない前提）

伝える内容

- 入っていい場所／いけない場所を明確に伝える（禁止区域の事故防止）
- 標識がない／分かりづらい前提で“先回り案内”する
- グレーゾーンは“ツアーでお願いね”など実行しやすい代替案で伝える
- 静音時間を明記する

その他

- 客層を絞る（静けさ・自然を楽しむ人に寄せる）
- 宿側のスタンスを明確化（パーティー利用などお断り方針）

## 近隣配慮・騒音／視線対策

- 近隣優先のプライオリティを明言（長期関係は近隣）
- 近隣の声を「聞いて受け止める→お詫び→改善策提示」の型で対応
- 物理対策：壁・植栽・ブラインド等で“見えない化”
- 近隣と一緒に改善（共同作業・対話で関係を柔らかく）
- 夜間の巡回・見回りでゲスト間トラブル／騒音を予防
- 騒音ルール：夜〇時以降／朝〇時までを明確化し運用する
- “プール付き宿の夜間騒音”を課題として共有し、抑止策を検討する
- 問題発生時：オーナー／管理者へ即連絡できる体制を持つ
- 近隣から“直接連絡できる”関係づくり（名刺・連絡網）

## 安全・防災・緊急時対応

- 滞在者と連絡が取り合えるグループを作り、緊急時に連絡できる状態にする
- 避難場所・避難導線をわかりやすく共有（地図リンク等）
- 津波等のリスク（〇分以内など）を具体で伝える
- 地域の避難訓練情報を一斉発信し、所感・フィードバックを送る
- 交通安全の重点箇所を共有し、看板等の対策を進める
- 危険なアクティビティは“信頼できる事業者だけ案内”する（安全安心の住み分け）

## ゴミ・資源・環境

分別

- 分別は“ゲストに求めすぎない／宿が再分別する”運用にする
- 最低限の分別（燃える／燃えない等）に絞って混乱・ストレスを減らす
- 石垣特有の分別（ラベル剥がし等）を宿側で徹底対応する
- 分別ルールの掲示（ポスター等）＋最終的に手仕分けで担保する

ごみ処理・清潔担保

- ゴミ出し運用の設計（玄関前→午前回収など）
- カラス等の被害対策（ネット等）を組み込む
- 匂い・汚れ対策（脱臭機材、魚処理注意、清掃強化）

漂流ごみ・ビーチクリーン

- 地域清掃（定期清掃・ビーチクリーン）を継続的に実施する
- 学校等と連携したビーチクリーン＋学習プログラムを作る
- 漂流ごみは家庭ごみで出せない前提で、別回収・別搬送にする

その他の環境対策

- 設備更新で節水など“努力しなくても環境負荷が下がる仕組み”を入れる
- 排水の再利用（エアコン排水を打ち水・水やりを使う）
- 光害への配慮（人感センサー・下向き照明・星空保護）

## 地域参加・交流・関係人口づくり

- 地域行事は宿泊者に“参加できる人を誘う”形で開く（ハーリー、綱引き、ビーチクリーン等）
- ホテルのスタッフによるビーチクリーンへの参加